

MURAKAMI KAIZOKU THE STORY

瀬戸内海には、かつて海賊がいた。戦国時代、「日本史」を記した宣教師ルイス・フロイスに「日本最大の海賊」と言わしめた村上上海賊である。彼らは、理不尽に船を奪い、金品を略奪するパイレーツではない。掟に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易や流通の秩序を守る役目を担っていた。

村上上海賊の本拠地である芸予諸島は、島々が密集して連なっている。海は一見おだやかに見えるが、狭い海峡にいざ船を進めると、潮の干満による激しい潮流が容赦なく襲いかかる。古来より、船乗りを悩ませてきた海の難所である。「船に乗るより潮に乗れ」。この地に語り継がれる漁師たちの言葉だ。

だからこそ、海に生き、潮を読み、複雑な地形を知り尽くした村上上海賊の力が必要とされたのだ。海賊たちは、地の利を最大限に活かして、瀬戸内海の覇者となった。

日本最大の海賊

村上上海賊が歴史に姿を現したのは、南北朝時代である。船を警固する小勢力から、やがて芸予諸島の全域を掌握する一大勢力へと成長した。

それを可能にしたのは、因島、能島、来島で同じ村上姓を名乗った三家の強い同族意識である。三家はそれぞれに海城を築き、因島村上氏は本州側の航路、能島村上氏は中央の最短航路、来島村上氏は四国側の航路を押さえていた。海城を要衝に置くことで、海の戦いに備えるだけでなく、海の関所として瀬戸内海の東西交通を支配したのである。

フロイスの船から航海の安全を求められた村上上海賊は、「怪しい船に出会った時にみせるがよい」と、紋章が入った絹の旗と署名を渡した。のちに「過所船旗（表紙の写真※個人蔵）」と呼ばれる通行許可証である。村上上海賊は、この旗と水先案内によって他の海賊や航路の難所から船を守り、対価として通行料を徴収していた。

海の関所が守ったもの

瀬戸内海を通行する船は、大名でも商人でも、村上上海賊の掟に従うことによって、安全に航海することができた。

こうして海の安全保障者としての名声を得た村上上海賊だが、実は、いくつもの顔を持っていた。

島々を物流の基地として、国内外を産地とする高級な陶磁器などの流通に携わる商人の顔。名だたる大名たちも願掛けの優雅さで、香や茶や連歌をたしなむ文化人の顔。そして、瀬戸内海で獲れる新鮮な魚介類を扱う漁業者でもあった。それは、海の幸を豪快に食す、地元の郷土料理にも受け継がれている。

想像を超えるスケールで今もこの地に色濃く残る、海賊ゆかりの史跡や文化。尾道と今治をつなぐ芸予諸島を行けば、息をのむほど美しい多島海の景色とともに、「日本最大の海賊」と称えられた村上上海賊の記憶をたどることができる。

商才も文才も超一流

“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島
—よみがえる村上上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶—



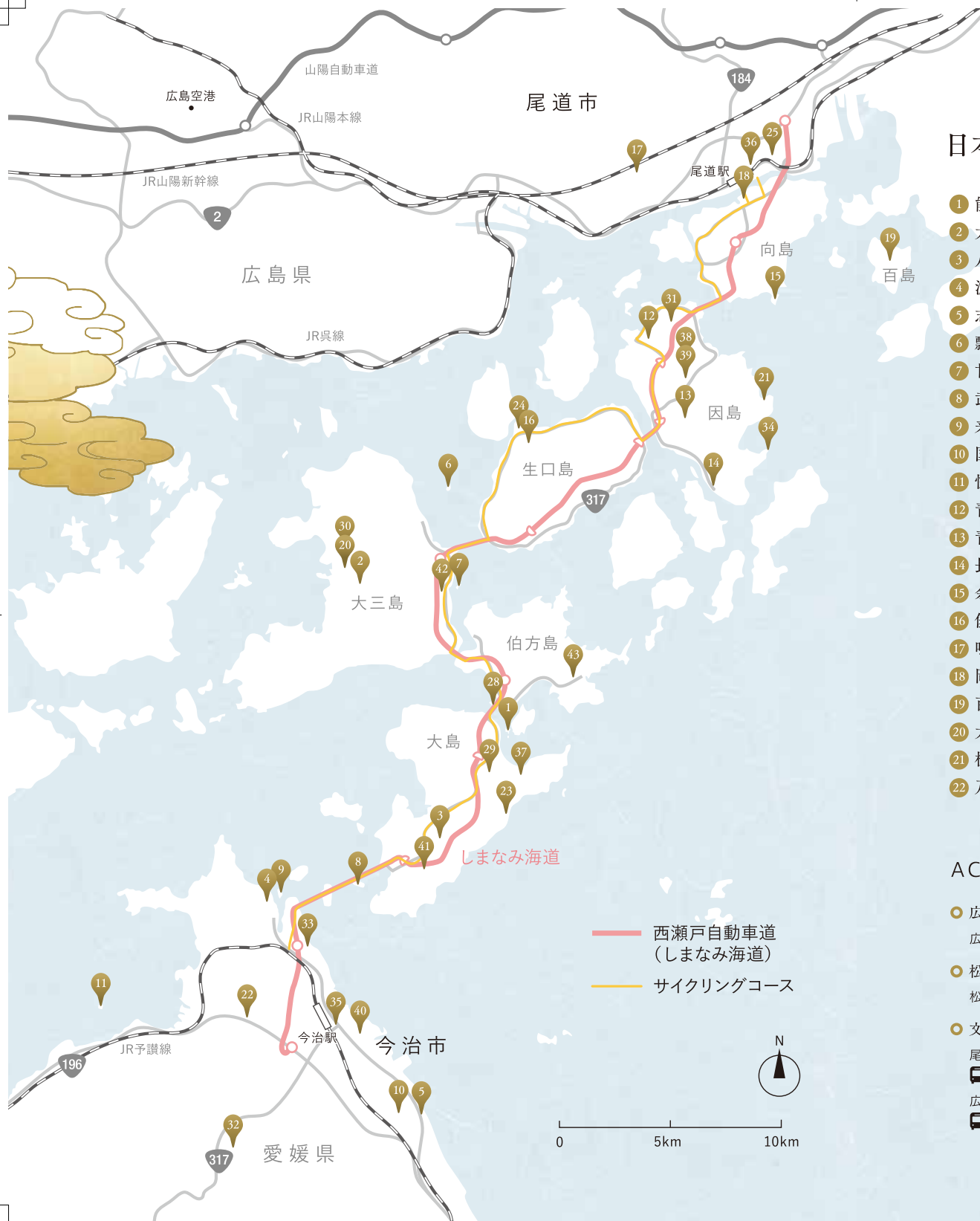
日本遺産魅力発信推進事業 「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、文化庁が平成27年に創設したもので、地域に点在する有形・無形の文化財をパッケージ化し、我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定する制度です。今治・尾道市は、2016年度に認定されました。

村上上海賊魅力発信推進協議会

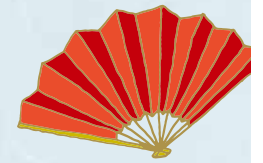
今治市教育委員会事務局 文化振興課 〒794-8511 愛媛県今治市別宮町1丁目4-1 Tel0898-36-1608 Fax0898-24-2008
尾道市企画財務部 文化振興課 〒722-8501 広島県尾道市久保1丁目15-1 Tel0848-20-7425 Fax0848-37-2740

日本遺産村上上海賊公式WEBサイト murakami-kaizoku.com





日本遺産 村上海賊構成文化財マップ

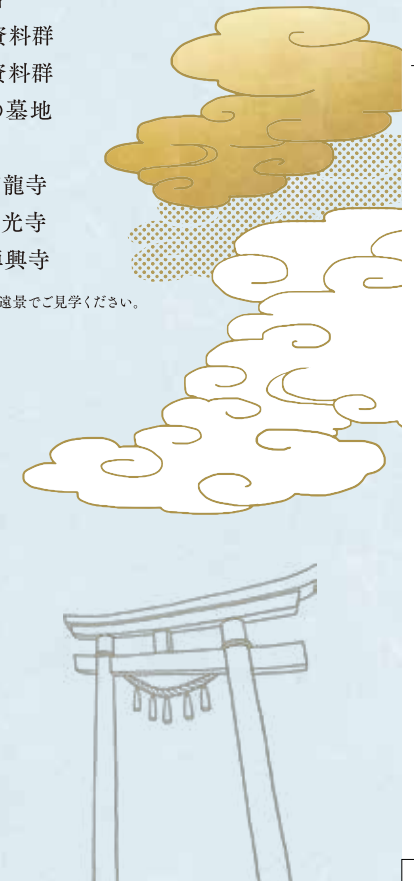


- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ① 能島城跡 | ②③ 友浦善福寺宝篋印塔および周辺の中世文化財 |
| ② 大三島 | ②④ 向上寺三重塔 |
| ③ 八幡山 | ②⑤ 浄土寺宝篋印塔 |
| ④ 波止浜 | ②⑥ 法楽焼 |
| ⑤ 志島ヶ原 | ②⑦ 水軍鍋 |
| ⑥ 瓢箪島* | ②⑧ 見近島 |
| ⑦ 甘崎城跡 | ②⑨ 幸賀屋敷跡および周辺の村上海賊関連遺跡群 |
| ⑧ 武志(務司)城跡と中渡(中途)城跡* | ③⑩ 大山祇神社の文化財 |
| ⑨ 来島城跡 | ③⑪ 白滝山(五百羅漢像) |
| ⑩ 国分山城跡 | ③⑫ 光林寺文書 |
| ⑪ 怪島城跡* | ③⑬ 大濱八幡大神社 |
| ⑫ 青木城跡 | ③⑭ 地藏鼻(鼻の地藏)、美可崎城跡 |
| ⑬ 青陰城跡 | ③⑮ 別宮大山祇神社拝殿 |
| ⑭ 長崎城跡 | ③⑯ 光明寺の浪分観音 |
| ⑮ 余崎城跡* | ③⑰ 能島村上家伝来資料群 |
| ⑯ 俵崎城跡 | ③⑱ 因島村上家伝来資料群 |
| ⑰ 鳴滝山城跡 | ③⑲ 因島村上氏一族の墓地 |
| ⑱ 岡島城跡* | ④① 今治城跡 |
| ⑲ 百島茶臼山城跡 | ④② 伝村上義弘墓と高龍寺 |
| ⑳ 大山祇神社法楽連歌 | ④③ 伝村上吉継墓と明光寺 |
| ㉑ 棕浦の法楽おどり | ④④ 伝村上雅房墓と禅興寺 |
| ㉒ 乃万地区の石塔群 | |

* 一般公開されていませんので、遠景でご覧ください。

ACCESS

- 広島空港から尾道駅へ
広島空港 → バス → JR尾道駅
- 松山空港から今治駅へ
松山空港 → バス → JR松山駅 → 電車orバス → JR今治駅
- 文化財エリア内
尾道 ↔ 今治
高速バス/路線バス乗り継ぎ 船 自動車 自転車 徒歩
広島/福山 ↔ 今治
高速バス



「襲う」「奪う」よりもむしろ「守る」。

村上海賊は、この地を渡る船の安全や祖先から受け継いだ信仰、かけがえのない穏やかな暮らしや、大名顔負けの優雅な文化、そして何よりもこの美しい瀬戸内海の風景を守って来ました。

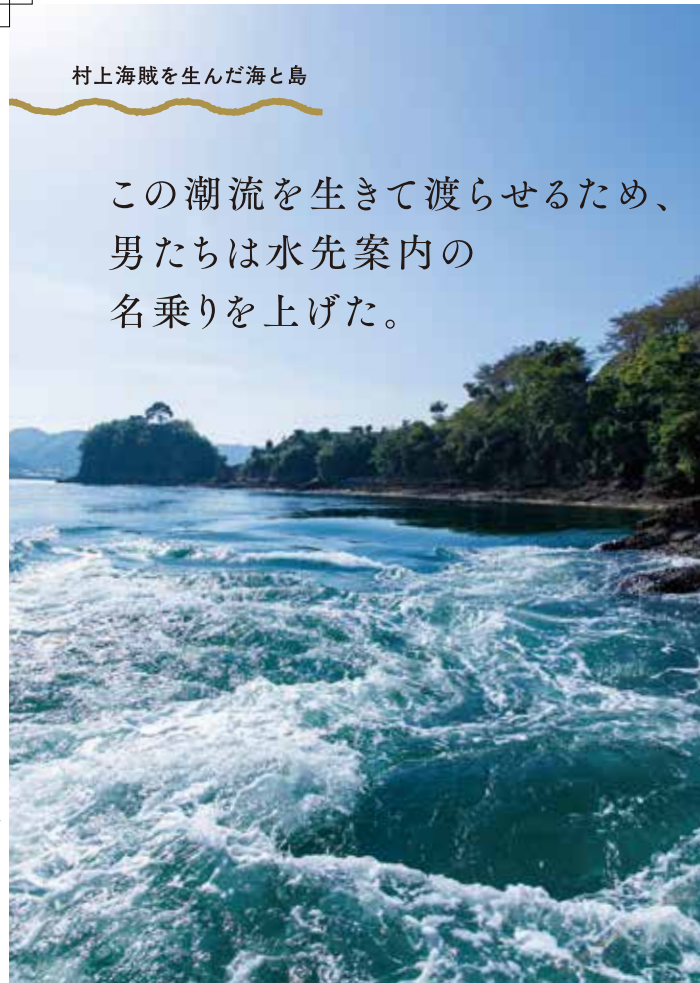
村上海賊の足跡をたどる旅は、日本人が心の中で大切にしてきた何かを探る旅なのかも知れません。

日本遺産
村上海賊



村上海賊を生んだ海と島

この潮流を生きて渡らせるため、
男たちは水先案内の
名乗りを上げた。



① 能島城跡

国史跡

南北朝時代から戦国期にかけて、能島村上氏が居城した代表的な海城の跡。周囲は潮流が渦巻く最大の難所であり、能島は天然の要塞とも言える城だった。岩礁には船をつなぐための柱穴が残る。

② 大三島

国名勝

村上海賊が本拠地とした芸予諸島の中で最大の島であり、島の中央にそびえる鷲ヶ頭山の眼下に広がるのは、多島美を象徴する絶景。島内には、村上海賊が氏神として崇めた大山祇神社が鎮座する。



③ 八幡山

国名勝

大島のほぼ中央部にある標高215mの八幡山。頂上からは、大三島や波止浜をはじめ、村上海賊が活躍した瀬戸内海一帯の島々を眺めることができる。八合目には巨大な天狗岩、山麓には弥生時代の遺跡や古墳もある。



④ 波止浜

国名勝

来島村上氏が居城とした来島城跡のある来島と、小島、波止浜湾からなる景勝地。来島海峡の潮流が激しく磯に打ちつけられ、渦巻く眺めは壮観。村上海賊が生きた時代の海と島の景観が今も残る。



⑤ 志島ヶ原

国名勝

伊予国から燧灘をのぞむ海岸に、幾千もの松が生い茂る景勝地。日本の白砂青松100選にも選ばれている。燧灘で嵐に遭った菅原道真公が、この地に上陸した伝説が語り継がれている。



⑥ 瓢箪島

国登録記念物（名勝地）

村上海賊が闊歩した島々の景観を代表する景勝地。瓢箪のような島の形から、その名がついた瓢箪島。大三島と生口島の間であり、それぞれの島の神様が瓢箪島に綱をかけて引き合ったため、中央がくびれてしまったという伝説がある。

島々に遺る、海賊どもが夢のあと。
海城の数だけ秩序があった。



⑦ 甘崎城跡

愛媛県史跡

戦国時代は来島村上氏重臣の村上吉継の居城であった。島全体を城郭として活用した海城で、難所の鼻栗瀬戸を押さえる位置にある。村上海賊が去った後も、近世城郭として改修された唯一の中世海城である。



⑧ 武志（務司）城跡と中渡（中途）城跡

来島海峡を押さえるため、中央と東側に築かれた能島村上氏の海城。海峡の西側は来島村上氏の来島城が分担して海峡を支配した。1585年、羽柴秀吉の四国平定によって明け渡された。



⑨ 来島城跡

来島海峡の要に位置する来島村上氏の居城。自然の地形を活かして郭が築かれた。岩礁には、おびただしい数の柱穴が残り、多くの船が出入りした隆盛の歴史を物語る。



⑩ 国分山城跡

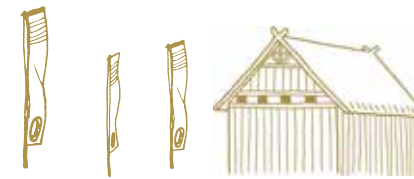
能島村上氏が国分山に普請したと伝わる城郭。今治城が築かれるまで、陸の拠点として機能した。



⑪ 怪島城跡

今治市史跡

来島村上氏の家臣である、神野左馬允が守っていたと伝わる海城。1585年、小早川隆景に攻められて落城したと伝わる。小さな島の頂部には郭が形成され、全体が城として活かされている。



海の関所となった海城



⑫ 青木城跡

広島県史跡

因島村上氏が、向島の余崎城より因島に移って構えた城。因島のほぼ北端、現在の重井東港を望む小高い丘の上にある。旧状を保った郭が五段に連なり、武者走りも残っている。



⑬ 青陰城跡

広島県史跡

周辺にある海城との連絡場所だった山城。因島村上氏が戦国大名と肩を並べるようになると、本城としての役割を果たした。青影山の山頂にあり、島のほぼ全域と周辺海域が見渡せる。



⑭ 長崎城跡

広島県史跡

因島の南西部、長崎瀬戸の岬に因島村上氏が最初に構えた拠点である。海側の岩礁には柱の穴も残っている。航路を見張る重要な海城であり、背後の丘陵には荒神山城跡がひかえる。

⑯ 俵崎城跡

村上三家とともに毛利方の武將に名を連ねた、生口氏によって築かれた海城。生口氏は当時、尾道に次ぐ港町であった瀬戸田を管理し、芸予諸島の海の勢力として活躍した。



⑰ 鳴滝山城跡

尾道市史跡

城主の宮地氏は尾道の海運を監視する役割を担っていた。城が攻め落とされると、因島村上氏を頼って因島へ。家老となり、尾道の海運力を海賊の交易力に生かす役割を果たした。



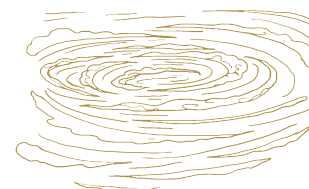
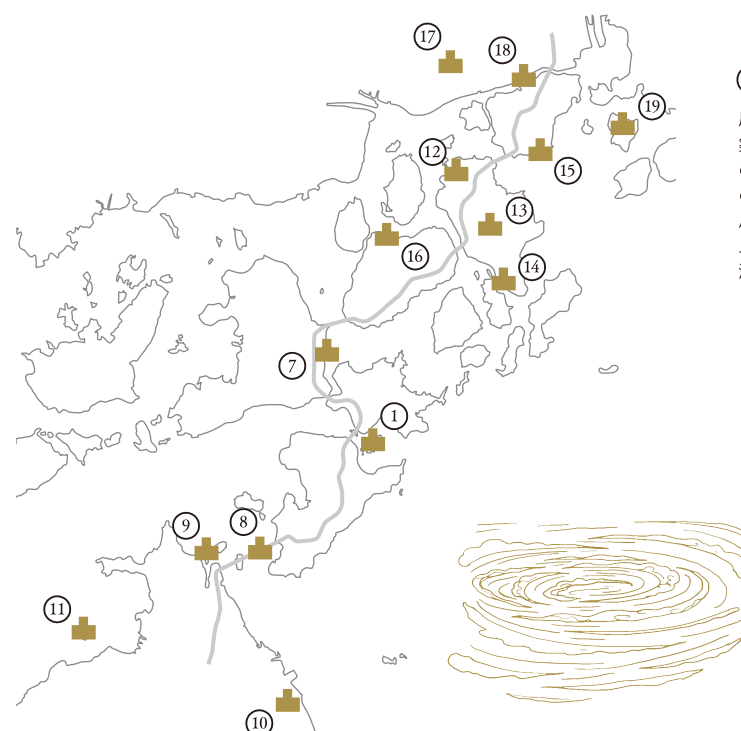
⑱ 岡島城跡

尾道水道をのぞむ向島に築かれた城。かつては「関の大将」と呼ばれた大海賊の居城だった。その後、小早川隆景と手を結んだ因島村上氏により駆逐され、村上海賊の城となった。



⑲ 百島茶白山城跡

百島にある茶白山の山頂に、因島村上氏が築いた城。百島は、尾道と鞆の浦のほぼ中間にあり、山陽側の航路の要となる重要な位置を占め、城を拠点に勢力を強めた。



⑮ 余崎城跡

厳島の戦いで報償として得た、向島の半島に因島村上氏の本拠として築かれた海城。港町尾道への航路をにらむ重要な拠点だった。郭跡や船隠しなどが今も残り、美しい景観を保っている。



香も、茶も、連歌も優雅に愛でた、
大名顔負けの文化の薫りが今も漂う。



⑳ 大山祇神社法楽連歌
国重文(典籍)

大三島に鎮座する大山祇神社に奉納された連歌。戦国時代には連衆に村上海賊の武将の名も見える。自らの思いを詠み連ね、武運を祈った海賊たちの高い教養と文化力を知ることができる。



㉑ 椋浦の法楽おどり
広島県無形民俗

因島の椋浦に今も伝わる法楽おどりは、村上海賊が戦いの勝利を祝い、戦没者の追悼を行ったことに由来するという。武者姿で跳ぶように踊る、勇壮な伝統芸能である。



㉒ 乃万地区の石塔群
国重文(石造美術)

村上海賊が史料に登場する前後の鎌倉時代末期から南北朝時代の石造文化を代表する、宝篋印塔などの石塔群が残る乃万地区。その意匠に、職人たちの南北交流の証を見ることができる。



㉓ 友浦善福寺宝篋印塔および
周辺の中世文化財

国重文(石造美術)・今治市有形

村上海賊が史料に登場する前、伊予大島に有力な勢力が存在していたことを示す友浦善福寺の宝篋印塔。周辺には、鎌倉時代中期の地藏菩薩立像など、中世の文化財が多く残る。



㉔ 向上寺三重塔
国重文

向上寺は村上海賊とともに戦った生口水軍の生口氏が創建した寺院。室町時代中期に建立され、瀬戸田水道と港町瀬戸田を見守るように建つ三重塔は、多島美と調和する美しい景観を生みだしている。



㉕ 浄土寺宝篋印塔
国重文

村上海賊が史料に登場する、南北朝時代に建立された宝篋印塔。「越智式」と呼ばれる芸予諸島から今治平野に見られるタイプで、南北交流の礎とも言える石造物。



瀬戸内海の幸を豪快に食す、
村上海賊は漁の民でも、
商人でもあった。



②⑥ 法楽焼

素焼きの器に小石を並べ、瀬戸内海で獲れた魚介類を豪快に盛りつけて焼き上げる郷土料理。村上海賊の武器であった「ほうろく」にちなんだ料理で、戦勝祝いに食したと伝えられている。



②⑦ 水軍鍋

芸予諸島で獲れた海の幸を鍋にしたもの。海賊たちが、新鮮な魚介類を船の上で豪快に食べていたことに由来するといわれる。尾道と今治では、村上海賊ゆかりの郷土料理として親しまれている。



②⑧ 見近島

能島城の北方約1kmに位置する見近島は、能島村上氏の物流基地としての役割を担っていた。集落の跡からは、大名の館にも匹敵する質と量の貿易陶磁器や、備前焼などの流通品が出土した。



②⑨ 幸賀屋敷跡および周辺の村上海賊関連遺跡群

今治市史跡・今治市有形

能島村上氏の陸地部の拠点集落だったと推定され、「鍛冶屋」や「番匠給」など城下町を思わせる地名が残っている。周辺の寺には中世の宝篋印塔など、村上海賊時代の繁栄を物語る文化財がある。



信仰のパワースポット

海の安全を守りぬく日々は、
大いなる天の力に守られていた。



③① 大山祇神社の文化財

国宝・国重文・国天然記念物

村上海賊は、御神木の大楠がそびえる大山祇神社を氏神として崇め、武運や海上交通の安全を祈った。宝物館には、名高い武将らが奉納した武器・武具の銘品が収蔵されている。

③① 白滝山（五百羅漢像）

尾道市名勝

因島村上氏が青木城を築いたとき、白滝山を控えるの要害として観音堂を建立した。江戸時代には、柏原伝六と弟子によって700体ほどの石仏が造られ、五百羅漢として信仰されている。



③② 光林寺文書

今治市有形

能島村上氏の全盛期を統率した当主、村上武吉が光林寺に灯篭を寄進したことを示す古文書。日本最大の海賊として名を馳せた、武吉の生年が記された貴重な史料とされている。



③③ 大濱八幡大神社

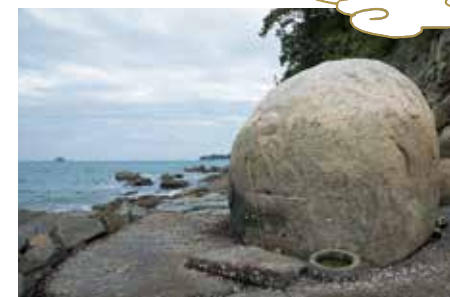
来島城の城下町として史料に登場する、大濱地区に鎮座する神社。1524年に同社が造営されたことを記した棟札には、「在来島城村上五郎四郎」と書かれており、村上氏が来島城を居城としていたことを物語っている。



③⑤ 別宮大山祇神社拝殿

愛媛県有形

大山祇神社の別宮として来島村上氏が修築した、格調高い切妻造、檜皮葺の拝殿。大山積神を祭神とするこの神社は、歴史の渦に巻き込まれながらも拝殿だけが焼失を免れた。



③④ 地藏鼻（鼻の地藏）、美可崎城跡

尾道市史跡

美可崎城は因島の岬に築かれた海の関所であり、船隠しの入江などが今に残る。その城の武将と船で通りかかった娘との伝説を刻む石仏が、鼻の地藏として語り継がれている。



③⑥ 光明寺の浪分観音

国重文

千光寺山のふもとにある光明寺に、村上海賊の武将、島居資長が寄進した観音像。海難を防ぐ浪分観音という異名で、海とともに暮らす人々の信仰を集めている。

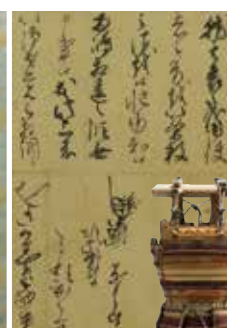
時の波を乗り越えてよみがえる、
日本一の海賊伝説は世界へ、未来へ。



③⑦ 能島村上家伝来資料群

今治市有形含む

村上海賊の英雄的な大将、村上武吉が着用したと伝わる猩々陣羽織や、中世の黒韋威胴丸など。能島村上氏に伝わる貴重な資料が、今治市の村上水軍博物館に収蔵されている。



③⑧ 因島村上家伝来資料群

広島県重文・尾道市重文

白紫緋糸段緘腹巻、紙本着色村上新蔵人吉充像、紙本墨書因島村上家文書など。因島村上氏に伝来する貴重な資料が、因島水軍城に収蔵されている。



③⑨ 因島村上氏一族の墓地

尾道市史跡

因島村上氏の本拠であった、因島の中庄に造営された菩提寺の裏山にある墓地。かつて分散していた一族の墓とされる宝篋印塔18基と、多くの五輪塔がここに集められている。



④⑩ 今治城跡

愛媛県史跡

村上海賊が芸予諸島を去った後、国分山城にかわって藤堂高虎が今治に築いた最新鋭の海城。堀には海水を引き入れ、芸予諸島に残った海の人々がこの城を舞台に活躍した。



④⑪ 伝村上義弘墓と高龍寺

南北朝時代に活躍した能島村上氏の伝説的武将、村上義弘の菩提寺とされる高龍寺。義弘の墓と伝えられる宝篋印塔は、寺の境内ではなく亀老山の中腹にある。



④⑫ 伝村上吉継墓と明光寺

来島村上氏を支えた一族の有力者、村上吉継が城主を務めた甘崎城の対岸にある明光寺。この寺には、吉継の墓と地元伝わる宝篋印塔が祀られている。



④⑬ 伝村上雅房墓と禅興寺

今治市天然記念物

能島村上氏の村上雅房の菩提寺とされる禅興寺。伯方島にあるこの寺の墓所には大楠がそびえ、その根元に雅房夫妻の墓があったと伝えられている。

